

2023 年度年次報告書

文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創

2023 年度採択研究代表者

江原 遥

東京学芸大学 教育学部

准教授

大規模言語モデル上での学習者の思考過程シミュレーションによる教育変革基盤技術

研究成果の概要

学習者に適した助言を行うには、知識量や推論力だけでなく個々の学習者の思考過程シミュレーションを通じた学習者の理解可能範囲の考慮が必要である。本研究では、個別適応可能で適切な助言を行える、組織内設置可能な大規模言語モデル技術を研究開発する。AIの内部状態を教育学の概念と対応付け、学校教員にもAIの個々の学習者への評価を理解可能にし、教育負担を減らしAIと教員が協働するためのAI基盤技術を研究する。

このため、本年度は、まず、自然言語処理等の分野のオンライン国際会議等に参加し、大規模言語モデル研究や学習者のための個別適応可能な教育AIに関する最新の情報収集を効率的に行った。また、文系分野における、大規模言語モデルや個別適応可能な教育AIに関する考え方を把握するため、文系分野のオンラインポスター発表会に参加し、教育AIや大規模言語モデルに関する議論を通じて知見を深めた。また、半年間という短い期間の中、経済状況などを注視しつつ、大規模言語モデル研究のための研究環境の整備に努めた。